

令和4年度「学生と学長との対話」第2回 概要

令和4年度 第2回 学長と語ろう—魅力ある大学をともにつくろう—

日時：令和5年2月28日（火）15：30 ～ 17：10

会場：共通教育棟 学務部会議室

参加者：学生8名（内訳：人文学部2名、経済学部1名、医学部1名、薬学部1名、
芸術文化学部2名、都市デザイン学部1名）、齋藤学長

陪席者：磯部理事・副学長、武山理事・副学長

令和4年度第1回（令和4年12月21日）に実施した「学生と学長との対話」において、学生がより主体的に発言できる環境づくりを行い、また、学生と教職員が一緒になって、さらなる大学の魅力発信に取り組み、より良い大学づくりを目指すため、第2回「学生と学長との対話」を実施いたしました。

第1回では、「本学の学生は、主体性の高い学生と主体性の低い学生で二極化している。」「学生自身が自らの学び（学びの意義）を深く理解していない。」現状があるとの意見があり、富山大学をさらに魅力のある大学にするために何が必要なのかについて議論を行いました。

意見交換の結果、大学から以下の回答を行い、最後に、学長から「これからも学生の意見を聞いて、大学と学生が意見を交わしながら魅力のある大学を作り上げていきたいので、協力してほしい。」と依頼がありました。

■ クォーター制の推進

授業期間に時間の余裕を設けることで、他学部履修を行う時間に使えるようにするなど、他学部学生との交流を促進できるよう工夫を行う。

■ 学生交流の機会を増やす

- ・国際交流（外国人留学生等）の機会を設ける。
- ・具体的な案（例えば、スピーチコンテストなど）を学生から提案してほしい。

■ 他学部履修について

- ・他学部履修について周知を行う。
- ・キャンパスの異なる学生が受講しやすいように、オンライン対応等の配慮を行う。

【学生の主な意見】

- ・大学全体として必要だと判断したもの（科目）については、必修として増やして行くことが必要なのではないか。一方で、必修になっているすべての授業が僕達にとって、必要なものなのかというと、すぐにそうだとは言えない。そのあたりを、先生方だけでなく、学生と共に作り上げられるような機会があれば良い。
- ・自学部以外の科目を履修したくても、空きコマがないため履修できない。また、キャンパスが異なる場合、移動の時間を考慮する必要があり、担当教員に個別対応をしてもらわざるを得ない。授業の履修にもう少し裁量があるとほかのことをやってみようというきっかけになる。
- ・学外活動、就職活動や海外に行くなど選択できるため、クォーター制に対する評価は高い。
- ・学部によって学生の主体性の高さが異なると感じている。クォーター制を導入して、自由な時間ができたとしても、全員が有効な時間に使えるかどうかは疑問が残る。大学に入学する意味がわからないまま入学した学生もいるので、そのような主体性が低いと思われる学生に対して、大学からサポートができるようになれば、もっと良い大学になると思う。
- ・すべての学部で同じ日程（クォーター制）になれば、もっと交流がしやすい。今のよう複数の日程がある状況は、交流の障壁になっている。また、教養より、もう少し幅を広くした授業（環境）があれば良い。自分の好きなことや面白いと思ったことが、ほかの学部で勉強できるということに気づき、学んでみたいという気持ちが生まれた瞬間に主体性が生まれると思っている。そのようなプログラムが、1年生の教養の授業であつたら面白いと思う。
- ・主体性がない人でも主体性がある人と関わることで変わることもある。主体性がない人を主体性のある人に方向付けをする前に、一度主体性のある人とない人を混ぜてみるなど、段階的に進められたら、主体性のある人も多少増えるのではないかと感じる。
- ・大人数で集まる講義ほど一方的な授業になって面白くないと感じているが、少人数は少人数で、文系の学部ばかりが集まっていて理系の刺激が少なかったり、グループが固定化したりしていて、アクティブラーニングの本質がうまく機能できていない状況があると感じている。富山大学は、とても良い環境が整えられているのにも関わらず、その中身が十分に発揮されておらず、もったいないという印象がある。

- ・クォーター制にする場合、今までの科目を移行するのではなく、全学的な遠隔授業を入れるなどの改革が必要ではないか。
- ・アクティブラーニングがなぜ大事なのか学生の方に行き届いてない。なぜ必要なのか私たちに伝われば学生は大事だと理解ができると思う。最初にそういう導入があったら良い。
- ・学長がおっしゃっているアクティブラーニング、英語力、データサイエンスが何のために必要なのかということは僕たちにも伝わりきってないところがある。導入教育で1年生の初めに言われてもわからない。学んで経験した後に、この背景にはこういう理屈があるという説明が繰り返し、繰り返し行われていかないとわからない。
- ・授業評価アンケートは、その結果がどれだけ授業に反映されているのかわからない。アンケートに回答しても変わらないから回答しなくても良いという人が多い。教員から学生への回答が示されているのであれば、できるだけオープンにして、学生に伝えてもらい、どこを改善しているのかというプロセスを明らかにした方が学生も納得ができる。
- ・コロナの影響もあると思うが、他学部との交流が少ない。それぞれの専門を生かすことができる共通の授業があれば面白い。
- ・他学部履修について、知らない学生も多いので、積極的に示してほしい。